

01

交通事故

現在、猫の殺処分数は年間約3万頭です
対して、交通事故で命を落としてしまう
猫はどのくらいいるかご存じですか？

殺処分の10倍 **年間約30万頭**
救えた命があるかもしれません



飼い猫を

外に出してはいけない

理由



02

感染症

1度かかると根治する方法はなく
死に至ることもある怖い病気で
実際、野良猫さんの中にはこの病気を
持っている子は少なくありません
「猫エイズ」「猫白血病」
「フィラリア」
猫も蚊にさされると感染します



03

虐待・毒餌

悲しいことに、心無い人間が動物を虐待する
事件が後を絶ちません

その標的は

人慣れしている外飼い猫

猫に向けて**エアガン**を発射したり
餌の中に**毒物**を混入するような悪質な事例も



04

殺処分

外に出て **迷子** になってしまった猫も
飼い主が見つからなかった場合は殺処分の
対象となってしまいます



05

近隣トラブル

猫の放し飼いによる近隣トラブルが増加し
ています

糞尿による異臭、鳴き声
抜け毛、車や家財の損害



06

窓の外は眺めているだけ



窓の外を眺めていても、ニャーニャーと鳴いていても、外に出たい訳では
ありません。外に出たいのかな？って思う気持ちは人間の想像です

紫外線を浴びてビタミンDを合成し血行促進や皮膚や毛の殺菌も
落ち着きたいとき、気分を変えたいときに外を眺めて、風になびく草木をみ
たり、鳥や虫を観察し **リラックス** しています

07

人にも移る感染症

マダニ・ノミ・ダニ

疥癬・ツツガムシ・皮膚糸状菌症
アレルギーや寄生虫など人間の命にも関
わる重篤な病気を持ち帰るかもしれません
野生動物由来の病原体を持ち帰ります
狂犬病は発症したら100%死にます

マダニが媒介する

「SFTS（重症熱性血小板減少症）」



08

猫ボランティアが
保護譲渡する理由

外で暮す全ての猫を保護できる訳ではありま
せん。外にいる猫の不幸をたくさん見てきま
した。一匹でも家の中で安全で快適な一生を
送らせてあげたいと、毎回、里親さんが見つ
かるのか？という不安を振り払い保護します。
飼い猫として人と暮らす練習をし、びかびか
の飼い猫にして譲渡します。

家の中で安全に猫を飼う事
全ての猫のボランティアの願いです。

